

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児理解演習Ⅱ Understanding Children with Disabilities Ⅱ		2年	後期	火曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大塚登	本館2階	火・水・木・金の9時から17時	授業中に指示します	
授業の概要				
授業の前半では各自の障害児観を問いただすことによりバイアスに気づくこと、中盤は発達心理学的な観点から障害児を理解することの大切さを、後半は支援の具体案を考えてもらうことを通し、より幅広い視点から障害を持つ子の理解し、より良い支援を考えてもらうことをねらっている。				
授業の到達目標				
現在その子にはどんな支援が必要なのかを定型発達と比較して考え、具体的な支援法を考えることができるようにする。その際、他者の考えも尊重し、自分の考えを修正し、より豊かな支援法を考えることができるようにする。また、自分の考えを他者に分かりやすく説明できるようにする。				
授業の方法				
グループによる討論と発表を中心として授業を進める。毎時間事例を用意するので、まず自分の考えをできるだけ明確にまとめ、グループ討論の中で発表し、また他者の考えを聞くことにより、自分では気づかなかった視点があったらそれを吸収し自分の考えを深めてほしい。				
学習の成果				
①自分では気づかぬ偏見がある場合があることを理解することができる。 ②支援における発達の視点の大切さとその観点より支援を考えることの大切さを理解することができる。 これらのことはいわゆる健常児の支援でも大切な視点であり、 ③障害児も健常児も同じ子どもであり、理解や支援の仕方は同じであることを理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (授業内容の説明, 評価法など), 幸福って何? ・映像資料			
第2回目	健常者・障害者って何? (「障害児者」の定義を考える)			
第3回目	偏見って何? I (一通の通知から), 文字資料			
第4回目	偏見って何? II (障害児者への支援者は「良いこと」をしている?)			
第5回目	言葉の発達 I (胎児期から1歳まで) ・映像資料			
第6回目	言葉の発達 II (1歳以降) ・映像資料			

第7回目	描画能力の発達発達・絵画資料	
第8回目	描画能力から子どもの発達段階を理解する	
第9回目	遊びの内容から子どもの発達段階を理解する・映像資料	
第10回目	心の理論	
第11回目	事例Ⅰ 他の子に暴力をふるってしまう子の理解と支援	
第12回目	事例Ⅱ 勝手に出歩く子の理解と支援	
第13回目	事例Ⅲ 勝ちにこだわる子の理解と支援	
第14回目	事例Ⅳ 癩癩を起す子どもの理解と支援	
第15回目	事例Ⅴ 他の子と遊べない子どもの理解と支援	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	30%	ディスカッションで自分の意見を発表し、他者の意見を参考に自分の意見を深められれば毎回2点つけます。
レポート		
調査報告書		
小テスト	16%	第5, 6, 7, 10回の授業で行います。穴埋め10題、論述1題で穴埋め10題正答3点、8題正答2点、6題正答1点、論述1点の4点×4回=16点
中間・学期末試験		
発表内容 (態度含む)	55%	第1, 2, 3, 4, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15回のワークシートで、自分の考え2点、みんなの発表を聞いて自分の意見が深められていれば2点をつけます。5点×11回=55点
その他		※評価基準の配点は合計101点になっています。1点はボーナスです。
教科書と参考図書		
毎時間資料を用意します。		
履修上の心得・ルール		
課題に対し、他者の意見も尊重して自分の考えを深められることが大切です。		